

神戸市立博物館 外部評価書(26年度)

使命 (要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価(A~D)の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D: 1点で算出。

A: 3.25点以上

B: 2.50点以上 3.25点未満

C: 1.75点以上 2.50点未満

D: 1.75点未満

平成 26 年度の総評

自己点検評価による総評

26 年度の入館者は、464,885 人と、25 年度に比べて 114,693 人と約 33% 増となった。特に、特別展では、「ボストン美術館 浮世絵名品展 北斎」の入館者が、予想を大きく上回り約 14 万人を記録した。最近の浮世絵ブームもあり、入場するのに待ち時間が発生するなど人気をうかがわせた。満足度も 83 と高く好評であった。

26 年度の新たな試みとして、館蔵品を Google Art Project を利用した高精細画像で公開したり、画像提供業務のうち商業利用が外部委託することによって、利便性を図ることができた。

一方、開館して 33 年目を迎え、以前から施設・設備面での老朽化の課題があったが、課題解決のためにリニューアルに向けての内部検討を開始した。検討の結果、27 年度に外部有識者による検討委員会を開催することを決めた。今後とも、神戸の文化振興の拠点として神戸市民の学習意欲に応え、誇りの拠りどころとして選ばれる博物館になるよう検討していきたい。

なお、4 つの活動目標の自己点検評価は、25 年度と同様であった。

外部評価による総評

活動目標に対する評価は「すべての人々にやさしい博物館にします」が B 評価、他の 3 点は A 評価となった。これは自己点検評価も含め、昨年度と同様の評価結果である。A 評価が続いている 3 点の活動は、博物館のこれまでの事業展開や継続的な取り組みの成果がよく表れているのだと考える。展覧会、学校関係を中心とした普及事業、地域に関する調査、他機関との連携など、可能な範囲で積極的に展開されている点が評価できる。

また、今年度から開始された Facebook、Twitter などの SNS による情報発信、Google Art Project を利用した館蔵品の高細精画像の公開は、館の情報を広く発信し、多様な層に届けるための新たな取り組みとして評価できる。

B 評価となった「すべての人々にやさしい博物館にします」については、リニューアルにむけた事業が予算化された点で改善が期待できる。リニューアルに関する計画の中で、施設などのハード面だけでなく、展示方法、展示内容、情報発信の方法なども含めてよりよい博物館が実現するよう、十分検討していただきたい。

神戸の文化、知の拠点となる博物館としてより一層の改善を期待したい。

活動目標 1

地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします 文化財を保存・継承していく博物館にします

自己点検評価・・・A

地域の歴史の調査・研究は、テーマを絞ったものではあるが、ほぼ計画通りに組織的に取り組み、特別展開催の目標に向け進んでいる。このような取り組みを、今後も継続的に行う必要がある。情報発信は自主企画展や講演により最新の地域の歴史情報を伝えるとともに、26 年度後半期からは新たに Facebook、Twitter などの SNS による情報発信手段も加わった。また、館蔵品情報は Google Art Project を利用した高細精画像での公開を開始するなど、新たな取り組みがおこなえた。

「博物館リニューアル」に向けた検討も開始し、地域の中の博物館としての現状認識と今後の方針についても内部で共有できた。

外部評価・・・A

○高精細画像は良い取り組みであり、引き続き対象を増加させて欲しい。

- I P Mについて具体的な取組みを進めていって欲しい。
- Facebook等頻繁に更新されており、情報発信に力を入れておられることは良く分かりました。SNSをきっかけとした来場者が増えたのかどうか等も評価の内容に加えられてもよいのではないかと思います。
- 組織的な取組み、リニューアルに向けた検討などの取組みが進められているのは分るのですが、スケジュール感がないように思います。何をいつまでにするかが明らかでない為、A評価はできません。
- 自主企画展において地域の歴史や文化財を取り上げることは重要だと思います。このような展覧会では入館者数が少なくなることもありますが、入館数だけが評価の基準ではありませんので、地域とのつながりのある自主企画展は定期的に継続してください。
- データベースは構築もそうだが、維持更新にも費用がかかる。そのために経費をきちんと把握できるようにして欲しい。

活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

自己点検評価・・・A

3つの大型特別展は、西洋美術、日本美術、歴史と分野のバランス、内容、入館者数とも良好な展覧会が開催出来た。常設展示とコレクションの展示を中心とした博物館リニューアル計画が始動し、将来展望に立った博物館の在り方について内部での検討と外部意見を活かし、より親しみ、学べ、すぐれた芸術・文化に出会える博物館を目指す必要がある。

外部評価・・・A

- 展示を中心に活発な活動を展開されています。
- 美術・歴史と分野のバランスは良かったと思います。大型展に連動した館所蔵品の紹介がもっと知られるようになれば更に良いと思われます。ただし、国や地域はあまりバリエーションがなかったのではないのでしょうか。エジプトのものは人気があると思っていましたが、入場者があまり伸びなかったのが意外でした。少しマンネリのように感じます。
- 現在、リニューアル検討委員も兼務しているが、例えば小学生にとって分かりやすい展示であるかという点についてより工夫があればと思います。そうした点につき、検討委員会でも工夫がされつつあると思いますのでBにしています。
- 館蔵品を有効利用できるような新たな展示計画をお願いします。
- 展示解説に参加者がいない日が多いのが気になる。勧誘方法や内容に工夫が必要か。海外展は名品が見られると楽しみにしている人が多い。今後とも積極的に開催して欲しい。
- 時代ごとの神戸の変化を示せる映像あるいはジオラマの展示ができたらと思う。フラワーロードは旧生田川であり、博物館は川の西側となる。視覚的に理解しやすいものがあれば。

活動目標 3

芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

自己点検評価・・・A

学校との連携は、これまでどおり出張授業の校数では限界の状態を実施しており、展覧会毎のワークショップ、さらには学習支援交流員主導によるワークショップも積極的に展開してきている。新規教材の開発も視覚障害者対象の館蔵品解説パネルなど、新たな教材開発が行われ27年度も継続する予定である。今後の課題としては、おきしお号のより一層の活用方法を考える必要がある。他館との連携では館蔵資料の貸出以外に、当館企画の展覧会(ギヤマン展)を奥田元宋・小由女美術館で開催したこと、また他館との共催でシンポジウム(国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈発見50周年記念シンポジウム)を開催するなどの成果があり、今後も連携の強化に努めていくことが必要である。

外部評価・・・A

- 優れた芸術に会う機会の提供という点では申し分のない展覧会開催であったと思います。ただし、講座などは土日に集中しており、「学び」の機会が得られたという満足は個人的にはほとんどありません。
- 「見て終わり」という展示になりがちなので混雑が満足度評価に直結しているのではないかと思います。
- 学芸員の方の出張講座は、どの学校でも分かりやすいと評判です。ただ展示品に特に関連深いと思われる社会科部(教員)と連携すればよいと思います。例えば社会科部の研究会を博物館で行うとか教員向けに神戸の歴史等について公開講座をおこなうというような教員向けの発信も今後企画すればよいと思います。
- 地道に着実に実行されている様です。今後もその様な取組みを進めていって欲しい。
- 今年も北神の中学校生徒会会議のために移動博物館を派遣してもらった。機動力のある展示法なので有効に活用したい。
- リニューアルによって1階部分を無料開放し、市民に親しまれるような施設にしてください。

活動目標 4

すべての人々にやさしい博物館にします

自己点検評価・・・B

施設・設備の改修が必要な個所は、まだ多くあるが、人用エレベーターの改修、非常用照明設備の蓄電池交換等を実施し、安全面の改善ができた。常設展示のリニューアルにあわせて、ユニバーサルデザインへの対応を含め、必要な施設、設備の改修を進めていく。

外部評価・・・B

- 自己評価は各項目ともBであるが、厳しい状況の中での努力は評価すべきであり、A評価とした。
- 市民、特定の作品(例えばザヴィエル像)のファンから資金を募り、プロジェクトを進めるクラウドファンディングのような市民参加型の改修計画を考えるなど、「すべての人にやさしい」、「すべてのひとから知恵を借りる」を実現するためにということも考え、これまでとは違う発想、考え方をする必要があると思います。
- 高齢者、身体の不自由な方等、外出の困難な方でも来館した際に満足していただける設備、無理のない動線等、改善できるところは是非改善してください。
- 既述のとおり、老朽化等の対応についてリニューアル検討委員会でも話し合われているのでBにしています。
- 今後のリニューアルによる改善に期待します。
- 予算の面で非常に厳しいものがあると思いますが、優先順位をきちんとつける等、着実に進めていってください。